

誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の 福が来るアドバイス



早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田 貴一

「家庭学習の時間は取っているのに成績が向上しませんでした」というご相談をいただきました。お子様の様子を詳しく伺うと、「机の前に座っている時間は長いのに成績が伸びない」とのことでした。このような場合は、「机の前に座っている時間が、本当の意味での『学習時間』になっているのか」という視点でお考えいただく必要があります。今回は、効果的な家庭学習について書かせていただきます。

効果的な家庭学習とは

「勉強している状態」とは？

私は、「勉強している状態」とは「頭を回転させている状態」だと考えています。長時間机の前に座っていても、しっかりと考えることをせずに「ボーっとしている状態」であれば、それは「勉強している」とは言えないでしょう。机の前にいる様子を見ただけで、親が「よし、勉強しているな」と安心してしまふのは避けるべきです。なぜなら、親が安心してしまふと、子ども自身も机の前に座っているだけで「自分は今勉強している」と思い込んでしまふからです。そのような学習スタイルになってしまうと、中学受験に向けてはもちろん、中学入学後もなかなか「効果的な家庭学習」がでなくなってしまうと思います。

逆に言えば、机の前に座っていないなくても「勉強している状態」を維持できるお子様もいます。以前、ある保護者様から「うちの子、机の前に座ったかと思うとすぐソファでゴロゴロして、また机に戻っての繰り返しで……」とご相談をいただきました。成績上位で宿題にもしっかり取り組む生徒でしたので、本人に話を聞いてみました。すると、「算数の難しい問題のときは、机で問題文を読んでからソファに寝転んで考えるんです。その方がよく解き方が思い付くから……」とのことでした。確かにお行儀はよくないですが、彼の場合はソファの上でも「頭を回転させている」「勉強している」状態だったのです。

私は授業中、生徒の「目と手」に注目しています。頭を回転させているときには、目か手のどちらかが動いていることが多いからです。目

がテキストのどこを見ているか、鉛筆を握る手がどんなふうに動いているかを確かめるわけです。ご家庭でも、そんな視点でお子様のご様子を確認してみてください。

頭を回転させないと……①

「解決策」を考えてしまふ

家庭で塾の宿題に取り組むときには、授業で教わったことを自分で振り返り、そのうえで「真剣に考える」必要があります。ただ、先述のように「机の前に座っていても頭が回転していない」という状態の場合、「真剣に考える」ことができず、「自分で解く」以外の方法で宿題を解決しようとする場合があります。

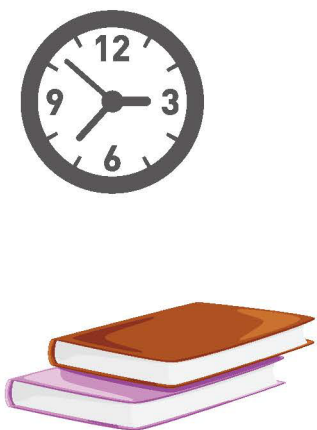
例えば、目の前に算数の問題があるとしましよう。問題の文章が少し長かったり、図が複

雑に見えたりすると、「難しいかもしれないな……」という思いが生まれて、考えることをやめてしまふのです。しかし、「宿題」ですからやらないわけにはいきません。すると「自分で考える」「自分で解く」以外の解決策を考え始めてしまいます。テキストの解答・解説を見てしまったり、「先生に質問」という付箋を貼って「解決」と考えてしまったり……。いずれにしても、そういった形での「解決」では、自分の力で問題を解けるようにはならないはずです。

頭を回転させないと……②

「文章」をきちんと読まない

国語でも同じです。以前、国語の宿題ではいつも記述問題を空欄のまま提出する生徒がいました。授業中の演習やテストでは記述問題も解いているのですが、提出された宿題を見ると記述問題の解答欄が空欄になっているのです。一応解答が埋められている選択肢問題も、正答率がよくない状態でした。授業後に個別に声を掛け、提出された宿題について「どんな内容の文章だった？」と聞いてみました。すると、文章



の内容がほとんど頭に入っていないことがわかりました。決して難しい文章ではなかったのですが、しっかりと「読む」ことはしていなかったのだと思います。その生徒の性格から考えると「手を抜こう」としたのではないと思うのですが、「集中して読んでいる」という状態ではなかったのでしょう。つまり、「文章を目では追っていても、頭が回転していないので何が書かれているか理解できない」という状態だったのだと思います。

効果的な家庭学習にするために

最後に、お子様の家庭学習を効果的・効率的なものにするためのヒント・アドバイスをいくつか挙げさせていただきます。お子様の性格・タイプに合いそうなものを試してみただければと思います。

①「時間を決めて」または「時間を計って」取り組ませる

制限時間が設けられていれば「そのなかでやり切ろう」という意識が働きます。また、時間を計ることで「少しでも早く」という気持ちも生まれます。結果として、集中して取り組みことができるようになるはずです。

②学習開始前の習慣をつくる

「机の前に座る前に窓を開けて深呼吸をする」「勉強の前に縄跳びをする」「コップ半分の水を飲む」「チョコレートを一つ食べる」などなど。習慣化することで、勉強に意識を向けるきっかけをつくるのも効果的です。

③学習時間を細かく区切る

低学年から中学年のお子様学習に集中できるのは45分から60分程度です。科目やテキストを変えるタイミングで、一度区切りをつけて休憩を取っていただくと、学習効果が高まるようです。

④勉強する場所を決める

勉強する場所は、「勉強に関係するものだけしかない」状態にすることが大切です。リビングで学習しているお子様も多いと思いますが、勉強するときにはテーブルの上を整理し、テキスト・ノートだけにするのがよいでしょう。

さまざまな方法がありますが、大切なのは結果として「集中して、頭を回転させながら取り組む」ことができるかどうか、とお考えください。

福田 貴一の
四つ葉café

公開中!

福田 貴一

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー
教育事業本部
副本部長

著書に『中学受験 身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。

早稲田アカデミー

検索



左の二次元
コードを
読み込んで
ご確認ください
スマートフォンのみ対応